

国際熱核融合実験炉（ITER）に関する
6 極次官級会合の結果について

平成 16 年 11 月
文部科学省研究開発局

1. 日 時 平成 16 年 11 月 9 日（金） 11：15～17：45
2. 場 所 ウィーン国際センター（オーストリア）
3. 出席者 議長：ブルカート IAEA 事務次長
我が国からは結城文部科学審議官、木谷文部科学省官
房審議官（研究開発局担当）他が参加
〔各国からの出席者については別添を参照〕
4. 会合結果概要
 - ホスト国及び非ホスト国の役割について、日欧がそれぞれの提
案について説明し、それをもとに議論を行った。
 - 日欧でお互いの立場の理解は進んだものの、依然意見の相違が
大きく、ホスト国及び非ホスト国の役割について合意には至ら
ず。
 - 今回の議論をもとに、ホスト国と非ホスト国の役割について、
日欧を中心に、今後さらに検討を継続することとなった。
 - また、6 極による ITER の推進が重要であることが参加各極
により確認された。

(別添)

次官級会合出席者

中 国： 石 科学技術部副部長 他

E U： ミトソス 欧州委員会研究総局長 他

日 本： 結城 文部科学審議官 他

韓 国： 具 科学技術部基礎科学・人材局長 他

ロシア： ボロフコフ 連邦政府防衛産業・ハイテク局長官 他

米 国： オーバック エネルギー省科学局長 他

共同プレスリリース（仮訳）
ITERサイト決定のための第4回次官級会合

（ウィーンIAEA本部、2004年11月9日）

中国、EU、日本、韓国、ロシア、米国の代表団は、ITERに関する交渉を進展させるため、2004年11月9日にウィーンのIAEA本部において会合を開いた。

二つのホスト候補極、EUと日本は、六極の国際協力による枠組みのもとでのITERの共同実施における、ホストと非ホストの役割と責務のバランスに関する集中的に行われた最近の二極間協議の結果について報告した。かかる協議は二極の見解の統一を目指して今後も継続される。

全参加極は積極的な雰囲気大いに勇気づけられ、この交渉が六極による近い将来の実りある結論に効率的に進みつつあるという楽観的意見を述べた。

Common Message from 4th Preparatory Meeting for ITER Decision Making

(IAEA Vienna, 9th November 2004)

Delegations from China, European Union, Japan, the Republic of Korea, the Russian Federation, and the United States met at the IAEA headquarters in Vienna on 9th November 2004 to advance the ITER negotiations.

The two potential Host Parties, European Union and Japan, presented the results of recent intensive bilateral discussions on the balance of roles and responsibilities of Host and non-Host in the joint realisation of ITER in the frame of a six-Party international co-operation. These discussions will continue in the near future with the aim of aligning the two Parties' views.

All Parties were greatly encouraged by the positive atmosphere and expressed their optimism that the process was now proceeding effectively towards a fruitful conclusion among the six Parties in the near future.